

第8回建築設計競技入賞

実践教育訓練学会主催建築設計競技において
当校の学生が入賞しました。

● 2等 株式会社松下産業賞

建築科2年

(写真左から) 貞野 岳仁さん、原田 真人さん



課題テーマ「防災住宅」

受賞作品 「川と暮らし川に備える」 ～暮らしに溶け込む防災～

コンセプト

住み手だけでなく、地域の防災拠点にもなる住宅

普段は川の水位を観測しながら、周辺の環境維持をする「水の守り手」

災害時は川の氾濫の予兆をいち早く捉え、避難放送や状況発信をする「人の守り手」

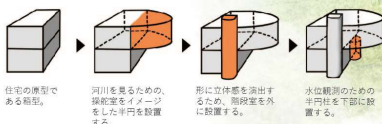
ここに住むことがそのまま防災につながる、新しい住宅と住み方の提案

川と暮らし川に備える

～暮らしに溶け込む防災～

住み手だけでなく、地域の防災拠点にもなる住宅。
普段は川の水位を観測しながら、周辺の環境維持をする
「水の守り手」。
災害時は川の氾濫の予兆をいち早く捉え、避難放送や状況
発信をする「人の守り手」。
ここに住むことがそのまま防災につながる、新しい住宅
と住み方の提案

01 Diagram 外観計画



住宅の原型である箱型。

河川を渡るための橋をイメージした半円を設置する。

形に立体感を演出するため、階段室を外に設置する。

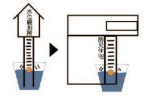
水位観測のための半円柱を下部に設置する。

02 Basic 敷地情報



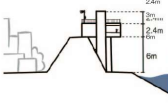
鹿児島県にある川内川の川内敷に立つ、住宅と水位観測所を兼ねた建築。この地域は台風で河川が氾濫したことによる浸水被害が多く、逃げ遅れる人もいた。そのためこの問題に対する防災住宅を設計する。

03 Function 水位観測



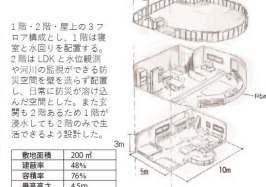
本設計は水位観測所と住宅を組み合わせたという発想から始まった。水位観測は川の水を引っ込み、浮き子の原理を測ることで行われる。この住宅も同様の機能がある。

04 Function 河川の氾濫



土手の高さは、その地域の予想最大洪水深さに設定する。今回は鹿児島県のハザードマップから6mに設定した。平時は橋脚と湧ることで行われる。自然により河川の監視を行う。

05 Basic 住宅構成



1階・2階・屋上の3フロア構成とし、1階は寝室と水回りを設置する。2階はLDKと水位観測や河川の監視ができる防災空間を設けず配置し、日常に防災が溶け込んだ空間とした。また玄関も2階あるため1階が浸水しても2階のみで生活できるような設計した。

敷地面積	200㎡
延床面積	48㎡
容積率	70%
建築高さ	4.5m

